

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

## 各論演習 9-1

問1)

次の資料により、損益計算書（一部）および貸借対照表（一部）を作成しなさい。なお、会計期間は1年、当期は×1年4月1日から×2年3月31日までである。

(資料1) 決算整理前残高試算表（一部）

決算整理前残高試算表		決算整理前残高試算表	
×2年3月31日			
現金	50,000	買掛金	156,000
売掛金	160,000	前受金	14,040
前払金	11,600	長期借入金	70,200
長期定期預金	93,400		

(資料2) 決算整理事項

決算整理前残高試算表の資産および負債のうち、外貨建てのものは次のとおりであった。なお、決算時の為替相場は1ドルあたり118円である。

勘定科目	帳簿価額		備考
現金	17,600円	(160ドル)	
売掛金	58,000円	(490ドル)	
前払金	11,600円	(100ドル)	
長期定期預金	93,400円	(800ドル)	(注1)
買掛金	57,040円	(480ドル)	
前受金	14,040円	(125ドル)	
長期借入金	70,200円	(600ドル)	(注2)

(注1) 長期定期預金は、すべて外貨建てのものであり、×1年12月1日から期間2年、利率年1.5%、利払日は毎年5月と11月の各末日である。

(注2) 長期借入金は、すべて外貨建てのものであり、×1年10月1日から期間2年、利率年2.0%、利払日は毎年9月の末日である。

解1)

(単位：円)

損益計算書  
自×1年4月1日 至×2年3月31日

IV 営業外収益	⋮ ( ) ( )	
V 営業外費用	⋮ ( )	

貸借対照表  
×2年3月31日現在

I 流動資産		I 流動負債	
現金		買掛金	
売掛金		前受金	
前払金		未払費用	
未収収益		⋮	
⋮		II 固定負債	
II 固定資産		長期借入金	
⋮			
3.投資その他の資産			
長期定期預金			

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 9-2

問1)

次の取引についてA社の仕訳を示しなさい。

1. A社は米国のB社に対して280ドルの商品を船便で輸出し、輸出と同時に取引銀行において船荷証券を担保としたB社宛ての荷為替手形200ドルを取り組み、割引料10ドルを控除した190ドルが当座預金に入金された。なお、輸出時の直物為替相場は1ドルあたり108円であった。また、A社の売上は輸出時に計上している。
2. 手形が決済されるとともに、残額80ドルがA社の当座預金に振り込まれた。なお、決済時の直物為替相場は1ドルあたり105円であった。

解1)

1.輸出時 単位：円

借方	貸方

2.決済時 単位：円

借方	貸方

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

## 各論演習 9-3

問1)

当社は会計期間1年であり、当期は×1年4月1日から×2年3月31日までである。そこで、次の資料により損益計算書（一部）と貸借対照表（一部）を作成しなさい（特に記入すべきものが無い場合は“-”を記入しなさい。）。また、決算整理前残高試算表の関連会社株式の金額を求めなさい。なお、当期における1ドルあたりの為替相場は、期首105円、期末98円、期中平均100円であった。

(資料1) 決算整理前残高試算表（一部）

売買目的有価証券	30,300
満期保有目的債券	38,850
子会社株式	81,600
関連会社株式	?
その他有価証券	20,800

(資料2) 決算整理事項

以下の有価証券は、すべて当期に取得したものである。

銘柄	分類	取得原価	取得時の為替相場	期末時価	備考
A社株式	売買目的有価証券	300ドル	1ドルあたり101円	305ドル	
B社社債	満期保有目的有価証券	370ドル	1ドルあたり105円	382ドル	(注1)
C社株式	子会社株式	800ドル	1ドルあたり102円	405ドル	(注2)
D社株式	関連会社株式	500ドル	1ドルあたり92円	-	(注3)
E社株式	その他有価証券	200ドル	1ドルあたり104円	190ドル	(注4)

(注1) B社社債（満期保有目的債券）は、×1年4月1日に取得したものであり、額面金額400ドルと取得価額370ドルとの差額は金利の調整と認められ、償却原価法（定額法、満期日×4年3月31日）を適用する。

(注2) C社株式（子会社株式）は、当期末において将来の回復見込みは不明である。

(注3) D社株式（関連会社株式）は、当期において発行済株式の20%を取得したものであり、期末の状況は次のとおりである。

諸資産	6,000	諸負債	4,800
		資本金	2,500
		繰越利益剰余金	△ 1,300
	<u>6,000</u>		<u>6,000</u>

(注4) E社株式（その他有価証券）は、全部純資産直入法で処理する。なお、評価差額には、法定実効税率を30%として税効果会計を適用する。

解1)

(単位：円)

損益計算書  
自×1年4月1日 至×2年3月31日

IV 営業外収益	( )	
V 営業外費用	( )	
	( )	
VII 特別損失	( )	
	( )	

貸借対照表  
×2年3月31日現在

I 流動資産		II 評価・換算差額等	
有価証券		1. 其他有価証券評価差額金	
II 固定資産			
3. 投資その他の資産			
投資有価証券			
子会社株式			
関連会社株式			
繰延税金資産			
決算整理前残高試算表の関連会社株式の金額			

円

氏名

点数 点/100点

各論演習 9-4

問1)

次の資料により、損益計算書（一部）と貸借対照表（一部）を作成しなさい。

(資料1)

決算整理前残高試算表		(単位：千円)
×2年3月31日		
その他有価証券	6,860	

(資料2)

1. その他有価証券は当期首に社債（額面100千ドル、償還期限3年）を70千ドルで取得したものであり、期末の時価は85千ドルであった。なお、額面金額と取得原価の差額は、金利の調整と認められない。
2. 1ドルあたりの為替相場は期首が98円、期末が100円であった。
3. 当社は外貨建有価証券の換算差額は容認処理で会計処理している。なお、評価差額には、法定実効税率30%として税効果会計を適用すること。
4. 特に記入すべきものが無い場合には、空欄に“-”を記入すること。

解1)

(単位：円)

損益計算書  
自×1年4月1日 至×2年3月31日

Ⅳ 営業外収益	⋮		
	⋮	( )	[ ]
Ⅴ 営業外費用	⋮		
	⋮	( )	[ ]

貸借対照表  
×2年3月31日現在

⋮ Ⅱ 固定資産 ⋮ 3.投資その他の資産 その他有価証券 ⋮	⋮ Ⅱ 固定負債 繰延税金負債 ⋮ Ⅱ 評価・換算差額等 1.その他有価証券評価差額金
[ ]	[ ]
[ ]	[ ]

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------


## 各論演習 9-5

問1)

外貨換算会計に関する以下の設問の文章について、正しいと思うものには○印を、正しくないと思うものには×印を付し、×印としたものについてはその理由を2行以内で記述しなさい。

1. 「外貨建取引等会計処理基準」では、外貨建取引と当該取引に係る代金の円決済取引とを別個の取引とみなして会計処理を行う、いわゆる一取引基準を採用している。
2. 為替決済損益・為替換算損益は、当期の為替差損益（為替差益または為替差損）として処理されるが、損益計算書上、営業外収益または営業外費用の区分に総額で表示することを原則とし、正当な理由がない限り、これを相殺してはならない。
3. 満期保有目的の外貨建債券については、決算時の為替相場による円換算額を付するので、償却原価法を適用する場合の償却額も決算時の為替相場により換算される。
4. 子会社および関連会社株式については、取得時の為替相場により円換算した額を付する。
5. 売買目的有価証券およびその他有価証券については、外国通貨による時価を決算時の為替相場により円換算した額を付する。
6. 外貨建有価証券について時価の著しい下落または実質価額の著しい低下により評価額の引下げが求められる場合には、当該外貨建有価証券の時価または実質価額は、外国通貨による時価または実質価額を決算時の為替相場により円換算した額による。

解1)

	○/×	×の場合はその理由	 ジョイフルスター 会計部
1.			
2.			
3.			
4.			
5.			
6.			

---



問2)

下記表の空欄を埋める場合、【語群】より選ぶならば、どの語を埋めればよいか、解答用紙に記入しなさい。

分類		項目	貸借対照表価額
(①) 項目	(①) 性資産	外国通貨、外貨預金、受取手形、売掛金、(②)、貸付金、(③) など	(⑩) 換算
	(①) 性負債	支払手形、買掛金、(④)、借入金、(⑤) など	
非(①) 項目	非(①) 性資産	棚卸資産、(⑥)、(⑦)、有形固定資産、無形固定資産、繰延資産など	(⑪) 換算
	非(①) 性負債	(⑧)、(⑨) など	

【語群】

流動、貨幣、未払金、未収入金、未払費用、未収収益、FR、AR、CR、HR、前受金、前払金、前払費用、前受収益

解2)

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	